小松島市立学校再編基本計画（案）を策定しました

今後、人口が急速に減少する中で小学校の小規模化はさらに進行し、学校施設の老朽化も相まって、教育環境の低下が懸念されるため、現行の学校再編計画の見直しが必要になっています。そこでこの度、小松島市立学校再編有識者会議を経て、小松島市立学校再編基本計画（案）を策定いたしましたので、その概要を以下のとおりお知らせいたします。なお、この案については、今後、11小学校区での説明会やパブリックコメントなどを行い、その際にいただく皆様からのご意見を踏まえた上で成案にしていきます。説明会の日程については、広報こまつしま７月号などでお知らせする予定です。

計画（案）策定の背景

・計画策定の趣旨

小松島市教育委員会では、平成22年度に「小松島市学校再編計画策定委員会」を設置し、平成24年度には「小松島市学校再編計画」を取りまとめ、中学校の再編に関しては、平成28年４月の小松島南中学校の開校をもって再編が完了しています。

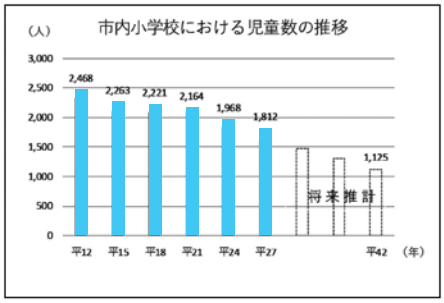
しかし、少子化に歯止めがかからない状況の中で想定を上回るスピードで児童数が減少していることや学校施設の老朽化など、本市を取り巻く状況は学校再編計画策定時から大きく変化していることを踏まえ、小学校の再編に関しては、現行の再編計画を見直し、改めて将来を見通した「小松島市立学校再編基本計画」を取りまとめるものであります。

・児童数の減少

市内小学校に在籍する児童数（対象年齢：満７歳から12歳）は、平成12年の２，４６８人から平成27年には１，８１２人と、15年間で約27％減少しております。このまま推移すれば、平成42年度には１，１２５人になると見込まれます（図１）。

その人数をもとに徳島県の学級編成基準である「１学級35人」で全学年２学級とした場合、将来の望ましい学校数は３校程度ということになります。

（図1）



・学校の小規模化

平成29年度現在、市内11小学校において適正規模（12から18学級）を満たしているのは、南小松島小学校のみとなっています。将来的には、多くの小学校で１学級10人程度になる見通しであり、集団生活の中で社会性を培うという教育の目的が達成できない恐れがあります。

小規模校は、一人ひとりにきめ細やかな指導を行うことができるなどの利点がある反面、過度な小規模化は、児童の集団活動や人間関係など、学校教育の様々な面への影響が心配されます。また、学校運営面では、教員の配置数が限られ、教員相互の意見交換や役割分担ができにくくなることなども考えられるほか、ＰＴＡをはじめとする保護者への負担も大きくなることが考えられます。

・学校施設の老朽化

市内11小学校のうち、10校の施設が築30年以上を経過しており、平成42年度までには、南小松島小学校、千代小学校、児安小学校、芝田小学校、和田島小学校、新開小学校の６校が築60年を迎えることになります。

本市ではこれまで、学校再編の取り組みとは別に、児童に関わる学校施設の安全性を確保するため耐震補強工事を最優先で行ってきましたが、それは施設の耐用年数を伸ばすものではないため、建て替えが必要になっています。